ひらかた文化財だより

発行
枚方市 観光にぎわい部 文化財課

〒573-8666
大阪府枚方市大垣内町２丁目１番 20 号
電　話：072(841)1411
ファクス：072(841)1278

鍵屋別棟が国登録有形文化財（建造物）に

枚方宿と淀川舟運の歴史を伝える市立枚方宿鍵屋資料館の別棟が、国登録有形文化財（建造物）に登録されます。

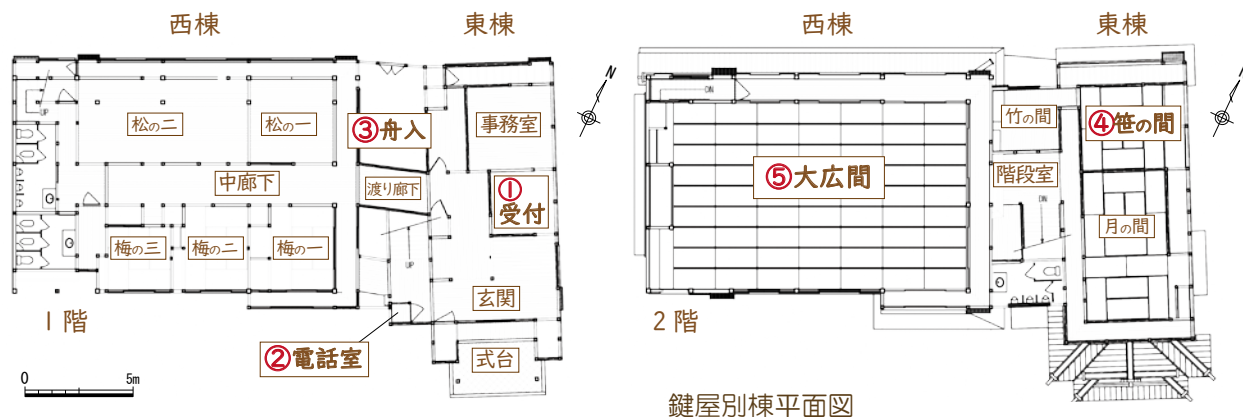
「鍵屋」とは

江戸期に枚方宿を代表する宿屋であった「鍵屋」。史料上で鍵屋当主と見られる「鍵屋太兵衛」の名が確認されるのは、高槻市柱本に残る安永２年（1773）の煮売船関係訴訟文書で、江戸時代後期以降は、『中振村役人日記』や『枚方宿役人日記』に鍵屋利用の記述が頻繁に見られるようになります。また、鍵屋のすぐ裏手は淀川に面しており、三十石船の船待ちの宿としても繁盛したようです。

別棟西棟の大広間

大正・昭和頃には枚方きっての高級料理旅館として有名になり、昭和 18 年（1943）から戦後にかけて休業した時期を除き、平成９年まで営業を続けていました。その後、市の所有となり、解体修理等の工事を経て平成 13 年に市立枚方宿鍵屋資料館としてオープンしました。

「鍵屋」の建物

鍵屋の敷地内には、旧京街道に面した文化８年（1811）建築の主屋（市指定有形文化財）と蔵、そして今回、国登録有形文化財に登録される別棟があります。別棟は主屋裏手の淀川に臨む場所に、敷地の間口ほぼ全体にわたって建てられた木造２階建の規模の大きな建物です。西棟は棟札から昭和３年の建築と分かります。東棟は材の古さから西棟建築時にはすでに建っていたものと考えられ、渡り廊下部分を昭和８年に増築し東西２棟をつないだ構造であることが分かりました。

鍵屋別棟平面図

鍵屋別棟の特徴

式台形式の玄関

①１階受付　式台形式の玄関を入って正面の部屋は、現在、資料館の受付と事務室に改造されていますが、かつては「みどりの間」と呼ばれる６畳と３畳の和室でした。６畳は平書院付きの床の間・床脇、炉も備えた茶室だったそうです。

②１階電話室　玄関左手にある半畳ほどの電話室。壁や扉には煙でいぶされ飴色に変色した煤竹が用いられ、磨り硝子の窓があります。廊下との仕切り壁は竹を少し粗くはめており、南面にも格子窓を設け、換気や採光を考慮した意匠になっています。

電話室

③１階客室と舟入　渡り廊下の先、中廊下の両側には和室が並び、現在は展示室として使用していますが、部屋の区切り、長押や欄間などの造作はほぼ建築当初のままで、かつての客室の雰囲気を残しています。

鍵屋別棟の基礎は 1.2 ～ 1.8 mと通常の建物と比べてかなり高くしています。昭和３年に西棟が新築された時、淀川堤防は今よりも低く、１階座敷からでも淀川を眺められるように配慮されたのでしょうか。

なお、１階には料亭時代につくられた舟入のディスプレイを生かし、くらわんか舟（模型）を展示しています。

１階客室を利用した展示室

④２階笹の間　玄関左手の２m幅の広い階段と階段室は昭和８年の増築で、階段の手すり部分には主屋の袖卯建にも描かれている「鍵」の透彫りがなされています。階段室の右手、東棟北側の「笹の間」には平書院付きの床の間、天袋・違い棚の床脇があり、床板・床框とも良質の欅材を使用していますが過度な装飾はなく、端正で格調高い座敷です。襖には中原鄧州（臨済宗の僧侶・1839-1925）の墨書、その上の欄間には中井吟香（日本画家・1901-1977）の絵が描かれています。また、入口の襖にも鳥居素川（ジャーナリスト・1867-1928）の書があり、部屋の２面を占めるこれらの作品は座敷との調和がとれており、作品自体の芸術的価値も高く貴重なものです。

階段手すりの鍵の透彫り

笹の間の襖

⑤２階大広間　鍵屋別棟の一番の見どころは、なんといっても高欄越しに淀川の景色を一望することができる 63 畳の大広間。幅約３mの床の間は床柱に北山杉を用い本床の形式を踏襲しつつ、木の造形を生かした数寄屋風のしつらえを加えています。

大広間の周囲の柱は太い栂材を用い、鴨居の上に長押・欄間・蟻壁を設け、さらに天井を高く折上格天井とし、格式を保ちながら明るく開放的な空間構成をとります。大広間内部に柱を立てていない大空間はキングポスト・トラス※小屋組によるもので、この規模の大広間は近在になく、近代の料理旅館として特徴的な部屋といえます。

※キングポスト・トラス：三角形をつなぎ合わせた構造形式で、中央に支柱が立っているもの。

国登録有形文化財（建造物）とは

国の文化財登録制度は、緩やかな規制により建造物を活用しながら保存を図るため、平成８年度に施行された文化財保護制度で、これによって登録された建物等が登録有形文化財（建造物）です。登録文化財には、原則として築後 50 年を経過している建造物で、

１．国土の歴史的景観に寄与しているもの
２．造形の規範となっているもの
３．再現することが容易でないもの

いずれかの基準を満たすものが対象となり、鍵屋別棟は「１．国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するとして評価されました。

市立枚方宿鍵屋資料館の基本情報

住　　所：枚方市堤町 10-27
京阪本線「枚方公園駅」下車、
西へ徒歩５分
開館時間：9:30 ～ 17:00（入館受付は 16:30 まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）、
年末年始（12 月 29 日～ 1 月 4 日）
入 館 料：一般 200 円
中学生以下無料
電話・FAX：072-843-5128

文化財コラム

幕末！しましまコレクション

女性が家族の着物の布を機(はた)で手織りしていた時代に、縞柄(しまがら)は、糸の配色や太さによって、何通りもの模様をつくりだすことができるものでした。自らが工夫し丹精込めて織った縞柄や、他の人が上手に織った縞柄の切れ端を、後の参考のために帳面に貼ってコレクションすることがありました。これを縞(しま)帳(ちょう)などと言い、日本各地の木綿布を織る農家で見られました。

写真の縞帳は、津田元町の旧家の蔵に、機織りの道具やたくさんの糸とともに残されていたものです。複数の表紙が重なって、慶応３年（1867）と明治 26 年（1893）の墨書があります。同家には、織工(しょっこう)や布の販売などに携わった言い伝えはないので、江戸末から明治時代にかけて、少なくとも二世代の主婦によってつくられ、使われたのではと考えられます。

縞帳

内容は、表紙を除くと 40 頁ありますが、布が貼られているのは 31 頁分で、右開きになるように順に貼られています。布の大きさはまちまちですが、各頁に 20 ～ 40 枚ほどの小さな縞柄の布が、びっしりと隙間なくコレクションされています。

江戸時代後期の随筆『守貞謾稿(もりさだまんこう)』に、当時の縞はもっぱら縦だが、昔はほとんど横縞で太い縞も多かったと記されています。『守貞謾稿』より新しいこの縞帳では、約９割が紺や藍色をベースに、茶・青・白色系の糸を配色した細い縦縞。残り約１割は格子縞で、昔はあったという横縞はありません。

また、民俗学者の柳田國男(やなぎたくにお)は著書『木綿以前の事』で、江戸時代以前に庶民の着物が麻だったころ、ハリのある麻布により身体の輪郭が直線的だったが、江戸時代に木綿が普及すると「いわゆる撫(な)で肩と柳腰とが、今では至って普通のものになってしまった」と、素材の変化によって、人々のファッションセンスが、体型を意識したものに変化したと述べています。

横縞と比べ、縦縞には着る人を細く見せる効果があるといわれます。縞帳には、ものづくりとコレクションの楽しさ、そして、細く見せたい願望も綴じられているのかもしれませんね。

イベント開催予定

お知らせ

	イベント名	開催日
輝きプラザきらら展示ルームで開催します		
①	文化財展示会 「ひらかたの発掘・いまむかし」 ※9/5（火）～9/14（木）は一部展示替えのため休館します	開催中～ R6.2/26（月）
たまゆらイベントホールで開催します		
②	市民歴史講座「江戸幕府の摂河治水システムと堤防保全策」	8/24（木）
③	令和４年度発掘調査報告会	9/16（土）
中央図書館で開催します		
④	古文書中級講座（全５回） ※９月申込開始	10/2·16·30、 11/13·27（月）
旧田中家鋳物民俗資料館で開催します		
⑤	カマドでご飯を炊こう	7/16（日）
⑥	オバケちょうちんづくり	7/28（金）～30（日）
⑦	ジュニア文化財学級「古墳のハテナ」	8/5（土）
⑧	くらわんか鋳物ツーリズム 2023	8/11（金・祝）
⑨	古文書講座（全４回）	9月下旬～10月上旬

◆旧田中家鋳物民俗資料館 7/22（土）～10/9（月・祝）
ちょこっと展「昔の夏のすごし方」

室内で快適に過ごすためのクーラーや扇風機、食品や飲み物を冷やし腐敗を防ぐ電気冷蔵庫などがなかった時代に、人々がどのようにして夏をすごしていたのか、氷で冷やす冷蔵庫・麦茶を冷やした水筒・窓や戸を開けて寝るための蚊帳（かや）など、昔の民具を展示し、夏を乗り切るための工夫や知恵を紹介します。８月１９日、２０日に土間トーク。９月１０日に学芸員こぼれ話を開催。

氷冷蔵庫と
麦茶を冷やす水筒

事業報告

◆市民歴史講座　3/4（土）　３組８人
「ひらかた歴史探検隊－枚方宿を歩こう－」

市民歴史講座ひらかた歴史探検隊は、子どもたちに枚方市の歴史や文化財に興味を持ってもらうことを目的に開催しています。

参加者は、「枚方宿探検マップ」を参考にしながら、「枚方宿をはしからはしまで歩こう！」、「万年寺山に登って淀川を見よう！」という２つのコースに分かれて、古い民家や寺院、道標などの文化財や町並みなどの景観について、枚方宿周辺を歩いて調べました。

各コースを歩いた後は、枚方宿鍵屋資料館に集合し、２階の大広間において、見たものや興味を持ったもの等について振り返り、意見交換を行いました。

アンケート結果によれば、枚方市の歴史を知ることができる良いきっかけとなったようです。

◆旧田中家鋳物民俗資料館　3/18（土）　10人
ちょこっと展「祭りのおもかげ」 学芸員こぼれ話

旧田中家鋳物民俗資料館では、３か月ごとに主屋の土間で展示する「ちょこっと展」を開催しています。その関連事業として、展示解説の「土間トーク」と、展示内容にあわせて、展示では紹介しきれなかった内容を学芸員がお話しする「学芸員こぼれ話」を行っています。この展示では、人々の暮らしの中にあった特別な日である「祭り」について、祭りにまつわる民具や昭和の祭りの写真を展示しました。

こぼれ話では、最初に「『まつり』ってなんだろう」と題し、大阪の代表的な祭りである天神祭を描いた『夏祭渡御列図』という絵巻から祭礼行列について解説し、祭りとは何か、また枚方の祭りによく見られる布団太鼓やだんじりについて話しました。

もうひとつは「むらの記録とまつり」と題し、天保９年（1837）から明治27年（1894）にわたって親子２代によって書きつがれた『中振村役人日記』をもとに、蹉跎（さだ）神社の秋祭がどのように行われたか、改暦によって日程が旧暦の９月９日から現在の10月に変更されていく過程などを紹介しました。

編集後記

梅雨入りが発表され、青梅が店頭に並び出した。暦の上での「入梅」が過ぎる頃には、実が黄色く色づき始めるので、梅干しを漬けるにはよい時期だ。青く硬い実で梅酒を作ったり、実が熟して黄色になり甘く香り始める梅仕事終盤にはジャムなどにする。「梅はその日の難逃れ」といわれ、朝出かける前に梅干しを食べるとその日の災難を免れるという。「梅に鶯」。藤阪の鋳物資料館では今も鶯が鳴いているのだが、カビが生えやすいこの時期、殺菌効果が高い梅干しを一粒、弁当のお供に忍ばせようか。